

五つ子に関する研究

東京都立大学名誉教授	山下 俊 郎
鹿児島大学 教授	島 田 俊 秀
東京家政大学 講師	大 瀧 ミドリ
東京家政大学 講師	川 合 貞 子
東京家政大学 助手	高 橋 裕 子

山下五つ子の精神発達についての第4年次報告として、1979年1月31日すなわち生後3年以降、1980年1月31日すなわち生後4年にいたる1年間の発達状況の研究結果の概略を報告する。

1. 研究の方法

今年度は2種類の発達テストと行動観察とを行った。発達テストとしては、研究の最初から用いて来たMCCベビーテストは適用の上限が3歳であるので、2歳後半は山下俊郎の編んだ山下幼児発達検査（適用範囲2歳～7歳）を用い、さらに3歳半以下はWPPSI 知能診断検査（Wechsler Preschool and Primary Scale of Intelligence）を併用した。なお、テストは3歳児になると記憶の発達により、近い日時間隔でテストを行うと、前にテストした際の記憶が残っているので可及的その影響を排除する為に、テストは3カ月間隔で行い、かつ山下式とWPPSIとを交互に用いた。従って、各テストの間隔は6カ月になる。両テスト施行の際は行動観察の記録も残した。また、3歳まで用いた津守式乳幼児発達質問紙はベビーシッターの交代や子ども達の幼稚園入園という生活の変化のために充分の資料が得られなかったので省くことにした。行動の観察と記録はテスト中に行ったもののほかに幼稚園に向いて保育中の行動観察を2回行い、平常の行動については幼稚園の園長、主任教諭、クラス担任教諭との話し合いを行った。テスト及び行動観察とそのまとめは前年同様、山下監督のもとに大瀧ミドリ、川合貞子、高橋裕子がその実際に当たった。

2. 結果の概要

発達テストの結果について先ず述べると、多少の順位（5児相互間の）の移動は3歳以前と同様に認められはするが、山下式テストの場合は5児共揃って極めて優秀発達をとげている。但し、新しく導入したWPPSIの結果においてはこ

のテストの適用範囲が3歳10月～7歳1月と高い年齢である為に3歳6月における結果はやや低い値を示しているが、それも智子を除く4人は正常の範囲に入っているし、4歳になるとさらに高くなっているので、全体としてはやはり5児とも揃って優秀であると結論していいであろう。

これらのテストの結果を、出生時からの結果と連続して概観する為D. Q. の数値とこれをグラフにして示すと次の表及び図の通りである。

(MCC ベビーテスト結果)

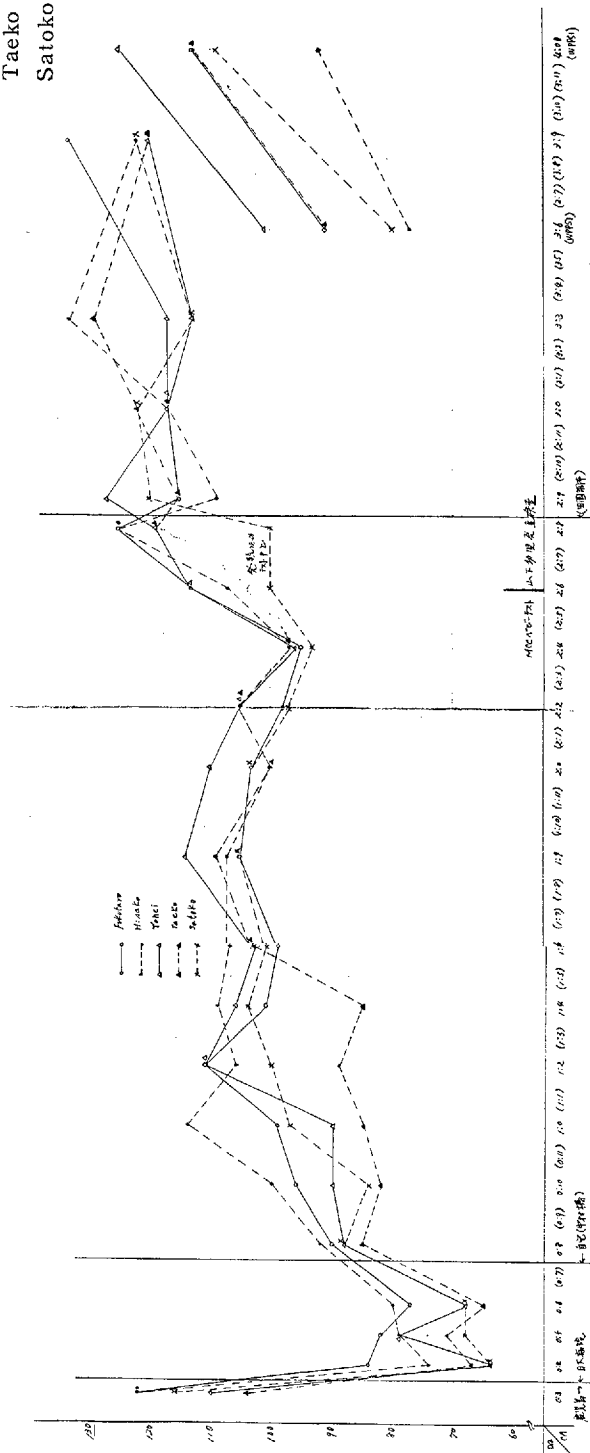
CA Date	0:3	0:4	0:5	0:6	0:7	0:8	0:9	0:10	0:11	1:0	1:1	1:2	1:3	1:4	1:5	1:6	1:7	1:8	1:9	1:10	1:11	2:0	2:1
	S. 51 5.7	64	720	8.17		1029		12.6		S.52 2.15		4.13		6.17		8.15			11.7			2.2	
Fukutaro	122	84	82	77		90		96		99		111		101		99			105			103	
Hisako	122	74	79	80		92		100		114		106		109		107			107			100	
Yohei	110	64	79	68		88		90		90		111		106		103			114			110	
Taeko	104	67	71	65		85		82		85		89		85		103			109			100	
Satoko	116	64	68	68		88		84		97		100		104		101			105			103	
鹿児島	→日大病院											→自宅 (中村橋)											

(山下式)

CA Date	2:2	(2:3)	2:4	(2:5)	2:6	(2:7)	2:8	2:9	(2:10)	(2:11)	3:0	(3:1)	(3:2)	3:3	(3:4)	(3:5)	Wpsl 3:6	(3:7)	(3:8)	3:9	(3:10)	(3:11)	Wpsl 4:0
	3:30		66		8.9		105	11.28			S.54 2.20			5.3			8.3			11.1			S.55 2.1
Fukutaro	98		95		113		125	115			117			117			91			133	-α		113
Hisako	105		97		107		125	109			117			133			77			122	-α		92
Yohei	105		96		113		119	127			117			113			101			120			125
Taeko	105		97		発熱のため不可		119	115			122			129			91			120			113
Satoko	97		93		100		100	121			122			113			80			122			109
田園調布→																							

(MCCベビータスト, 山下幼児発達検査によるDQ及び
WPPSIによるI.Q.)

Fukutaro
Hisako
Yohei
Taeko
Satoko



この発達過程をみると生活環境の変化によって、次第にその発達が促進されていることがよく分る。このことは今年度における幼稚園入園という大きな変化の反映と思われる言語の発達を見るととくにはっきりする。山下式テストでもそうではあるが、WPPSIにおいては、とくに言語性検査と動作性検査がはっきり分れていて、両者別々にI. Q.を出し、その総合によって全体のI. Q.が算出されるようになっているので幼稚園入園後4カ月の時と9カ月を経過した時のスコアをみると、次の通りである。VIQは言語性、PIQは動作性各検査のI. Q.（を示し、その総合が下のI. Q.）である。表にみる通り寿子のみは停滞しているが、他の4児はVIQにおける著しい発達を示している。

言語発達の遅滞は、山下五つ子たちにも前年度まで見られた通り、一般に多胎児の通有的特徴とされているのであるが、この子ども達は幼稚園生活という社会生活によって、その言語発達を著しく促進されていることが、この数字によってはっきり示されている。

次に行動観察の結果について簡単に述べる。

まず、テスト中における行動において特に目立つことは、テストの作業に対して興味を持つようになり、積極的態度を以て作業するようになったことである。しかし、自信のない場合にはなかなか答えなかったり、描いた図形を手でおおいかくすというような行動も見られた。これも社会性の発達における一つの面でもあると見られよう。どの子どもも作業がうまく出来ると満足感を示すことも、その反面に見られ、自分の行動及びその所産に対する評価が出来るようになったことが示されている。このような傾向は知的発達の一面でもある。

五つ子達にとってこの年度における最大の変化を与えた事件は、何と言っても幼稚園の生活が始まったことである。わたくし達は3歳すぎたら幼稚園の生活がその成長にとって絶対的必要条件であると考えるもので

あるが、それが五つ子の場合にはとくに重要であると考えていた。実際問題としては、3歳児を保育するいわゆる3年保育を行っている幼稚園が少ないので、私たちは苦勞して探し、幸いにして徒歩通園のできる清明幼稚園があったので入園させた。3年保育組は20名であったから如何かと案じていたが幸にして園長はじめ教諭諸姉のよき理解のもとに受け入れてもらうことができた。

子ども達にとってこの幼稚園での生活は他の子ども達とは比較にならないくらい大きな意味をもっていたし、今後とももっているのである。いままで家庭の中であって一緒に5人だけで生活してきた彼等がはじめて家庭外の他の子ども達の集団生活へと入り込んで行くのであるから、これは誠に大きな変化におつかる訳である。入園の最初に、送ってきた親から離れたがらないで泣きさわぐということは他の子どもにも一般に見られることが多いのであるが、彼等にもこの現象は見られた。しかし、とくに目立ったことは、5人だけが固まっていた、他の子ども達と共同行動を取らないという事態が入園式の最初の日に現われて来たことである。この場面はNHKのテレビ放送にも出てきたので、多くの人々が見たとおり、他のすべての子ども達が立つのに5人は頑として立たないという情景が現われた。これは、今まで5人で常に一緒に行動してきた生活の影響で、実質的にはひとりっ子などにも時には現われることと同じであるが、5人で他の子ども達と異なる行動をとったので目立った訳である。

しかし、この5人凝固型の行動は、次第に解消されて、夏休みに入る前には、5人がそれぞれ別々のグループの子ども達と遊ぶようになっていた。多胎児に一般的に見られる社会性の欠除という特徴が、山下五つ子達にも現われたのであるが、それは幼稚園という集団生活に入ってみて始めて発見され、そして集団生活の中で生活していくうちに解消されるという当然の予

	Fukutaro		Hisako		Yohei		Satoko		Taeko	
テスト実施日	54.8.3	55.2.1	54.8.3	55.2.1	54.8.3	55.2.1	54.8.3	55.2.1	54.8.3	55.2.1
V I Q	89	109	81	80	87	103	86	115	90	107
P I Q	97	113	81	107	115	139	81	100	95	115
I Q	91	113	77	92	101	125	80	109	91	113

想が適中したとは言えるが、この子ども達にとっては非常に幸せな結果であったと言えるであろう。幼稚園の生活に入ったということとも関連があるとも言えるし、また当然の成長の現われでもあると言えることは、5人の子どもがそれぞれに個性をはっきりと現わしてきたことも重要な事実である。例えば、福太郎は何ごとにも熱中しやすい「熱中派」、寿子は「料理好き」、洋平は「社交家」、妙子は「スポーツマン」、智子は「絵が好き」というようにマスコミの記者に報道されている。これと似てはいるが多少違う表現をしている記者もあるが、とにかく、5人がそれぞれ個性を発揮しはじめたことは確かである。4歳すぎればパーソナリティ・テストも、あるものは可能となるので、発達検査と同時にこれらのテストも行うことも新しい年度の課題となるであろう。

なお、放映されたテレビの中で、5人に対して「きょうだいはいるの?」と幼稚園の教諭が聞くと「いない」という答がなされ、「誰がお家にいるの?」と聞くと1人1人の名前をいう場面があり、一般の人の興味をひいたようであるが、このことは彼等の両親が序列をつけないで1人1人を独立人として扱っているという最も好ましい扱い方をしている結果であると考えられる。

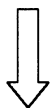
5児の行動観察の記録は未だ十分に整理されていないが、ここには最も目立つ点を幾つか拾いあげるに止めた。そのまとめはこれからの課題である。

註 WPPSI はアメリカのWechsler の作製によるテストで、WAIS, WISK などともそうであるが、日本版の標準化がなされているものである。
(日本文化科学社刊)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



山下五つ子の精神発達についての第4年次報告として,1979年1月31日すなわち生後3年以降,1980年1月31日すなわち生後4年にいたる1年間の発達状況の研究結果の概略を報告する。